

番 号	県 5	区 分	県指定文化財
種 別	無形民俗文化財	保持団体	五宮神社氏子衆
名 称	田立の花馬祭り		
指定年月日	平成5年2月18日		
所 在 地	南木曾町田立		

概 要

花馬祭りは五宮神社例祭の別称で、毎年10月第1日曜日(平成19年以前は10月3日)に豊年、安産、家内安全などの所願成就の感謝として花馬を奉納する祭りである。五宮神社は明治41年に南宮社・大平社・八幡社・熊野白山社・新明社の5社が合併してできたもので、花馬は湯立てを行っていた神明社を除く4社で行われていた。

花馬の始まりは、津羽沢小幡家文書に「享保2酉年(1717年)此年南宮産神花馬始テ執行」とあることから、この年まず南宮社によって始められたようである。花馬の行列は、まず各部落の代表、その後ろに30人の若者からなる笛・太鼓の囃方、最後に花で飾られた馬が進む。集落を通り抜け、神社の境内に入りゆっくりと3回廻ると人々は一斉に馬に飛びついて花飾りの争奪をする。取った花を家の入口に挿すと家内に疫病神が入らない、田畔に挿すと虫除けの守りになると伝えられているからである。特に神籬を取った者は最大の幸福があると言われている。

東美濃に同類の祭りが多くことから、そちらから伝えられたものと思われる。

